

ズレてる支援！

11月5日に、岡部耕典さん、岩橋さん、末永弘さんと一緒に書かせていただいた『ズレてる支援！』が出ました。

この本は大きく3部に分かれています。

第1部は身近で具体的な生活と支援の様子について書かれており、読みやすいと思います。自立生活支援のマニュアルから始まる、この本の大きなテーマのひとつである、当事者と支援との間にある「ズレ」について書かれています。第2部では、この本のもうひとつのテーマである重度訪問介護の対象拡大の紹介や、制度がつくられた経緯について書きました。第3部は「次につなげる」として、重度訪問介護に移行するにあたって義務化された計画相談について。パーソナルアシスタンスの考え方。そして介助者が介助を続けられるための労働条件などについて。

2008年に『良い支援？』を書いた当時、身体障害の人しか使えなかった「重度訪問介護」という介助制度。2014年から他の障害の人でも使えるようになりました。しかし対象拡大は始まったばかりで、この制度の対象となる重度の知的障害で自立生活をしている人もまだ多くはありません。この制度はどのような中身で、どう考え、どのように使えるのだろうか—その手引となる本が必要だと考えました。

しかしぼく個人としては、苦しい時期に書くことになり、なかなか筆が進みませんでした。何かを書けるのは、その物事がある程度整理されて初めて書けるのですが、自分のやっていることや周囲の物事との距離をまったく取れず、混乱した中では感情にまかせた超主観的であまりにも伝わらないものを書いてしまうだろう（そうでなくても伝わりにくい）。一方、書ける事は自分にとってはあまりにも身近であたり前な事、解決してしまった過去のことであって、それもまた距離をとりやすく、書いたページ数の割に難しい作業となりました。

そんな私でしたが、他の3人の著者はそれぞれの課題に対し剛速球で突き進んでくださいました。ただし剛速球すぎて読む人がついて行けなくなるのではもったいない。読む人が入っていけるよう、ぼくはつゆ払いに徹したところがあります。

さて、このなんとも出口がなく身も蓋もない話もたくさん載った本書、ぜひ感想を聞かせてください。

本誌上で執筆陣による持ち回り連載が続きます。12月は岡部さんが登場です。

『ズレてる支援！—知的障害／自閉の人たちの自立生活と重度訪問介護の対象拡大』

出版元：生活書院 定価 2484円（税込）

多摩周辺だと多摩センターの丸善、立川のオリオン書房ノルテ店、若葉台のコーチャンフォーなどですぐには買えるそうです。

(寺本晃久)

